

68.

615.725

「アドレナロン」ノ氣管枝喘息ニ
對スル臨牀的實驗

醫學博士 今 橋 鐵 三

[昭和7年10月13日受稿]

Erfahrungen der klinischen Anwendung des Adrenalons
als Asthmamittel.

Von

Tetsuzo Imahashi.

Eingegangen am 13. Oktober 1932.

Es wurde in 14 Fällen von Asthma bronchiale der therapeutische Wert des Adrenalons geprüft. In fast allen Fällen konnte das Mittel durch subkutane Verabreichung meistens von 1 ccm 1%iger Lösung, in schweren Fällen von 2 ccm davon, den Anfall beseitigen, und zwar zuerst die subjektiven Symptome in 3 bis 8 Minuten, dann die physikalischen Symptome in 5 bis 10 Minuten. In einem hartnäckigen Fall, wo Adrenalin, Ephedrin und Pantopon versagten, war der Erfolg unbefriedigend, trotzdem die Dosis bis 2-3 ccm gesteigert und 2 mal nacheinander mit einer kurzen Pause gegeben wurde. Als Nebenerscheinungen wurde fast nichts bemerkt, auch bei der Anwendung von 2-3 ccm. In diesem Sinne hält der Verf. das Adrenalon für ein hervorragendes Mittel im Vergleich mit den bisherigen (sympathicotropen) Mitteln. Denn bei Anwendung von Adrenalin, Ephedrin, Antastol, Asthmolysin oder Rephrin wurden immer mehr oder minder Nebenerscheinungen, wie Herzklopfen, Blässe des Gesichts, Unruhe, Zittern u. a. beobachtet. Was den Vergleich der Heilerfolge an betrifft, kann der Verf. noch nichts bestimmtes sagen. Doch schien dieses Mittel dem Verf. in einzelnen Fällen wirksamer als Adrenalin (in 2 Fällen), als Antastol (in 2 Fällen), als Papaverin und Morphin-Atropin (in 1 Fall), als Rephrin (in 1 Fall) und als Ephedrin (in 2 Fällen). (*Kurze Inhaltsangabe.*)

氣管枝喘息ノ藥物的治療ニハ「モルフィン」, 「コデイン」, 「ヘロイン」等ノ中樞性呼吸鎮靜劑, 「ババヴェリン」, 硫酸「マグネシウム」, 「デウレチン」等ノ滑平筋麻痺劑, 「アトロピン」ノ如キ迷走神經麻痺劑, 「アドレナリン」, 「エフェドリン」, 「アストモリジン」(「アドレナリン」ト腦下垂體「エキス」ヲ含ム), 「アンタストール」(副腎性物質, 腦下垂體物質, 甲狀腺物質ヲ含ム), 甲狀腺劑等ノ交感神經興奮劑ガ用ヒラレル。併シ, 中樞性呼吸鎮靜劑ノ應用ハ有效デア
ルケレドモ習慣ヤ慢性中毒ヲ起ス危險ガアリ, 滑平筋麻痺劑ハ奏效ガ不十分デ, 且忌ハシイ副作用ガ多イノデ, 迷走神經麻痺劑及ビ交感神經興奮劑ガ主トシテ用ヒラレテ居ル。之等ハ奏效確實デハアルガ, 不愉快ナ副作用ガアル。例ヘバ「アトロピン」ハ氣道ヤ口腔ヲ乾燥セシメテ患者ヲ苦シメ, 咳嗽ヲ起シ, 不安, 興奮ニ陥ラシメル。「アドレナリン」, 「アストモリジン」, 「アンタストール」, 「エフェドリン」ハ心悸亢進, 脈搏頻數, 顔面蒼白, 不安, 胸内苦悶, 眩暈, 四肢震顫等ヲ起シ, 「アストモリジン」及ビ「アンタストール」ハ注射時疼痛ガ甚ダシイ。故ニ何か奏效確實デ而モ忌ハシイ副作用ノナイ藥物ガアレバト思ツテ居タ時, 奥島教授カラ「アドレナロン」ヲ示サレタノデ, 大ナル興味ヲ以テ本實驗ニ着手シタ。

「アドレナロン」ハ「メチール, アミノ, アセト, ブレンツカテヒン」デアツテ其ノ構造ハ「アドレナリン」ニ甚ダ類似シテ居ルガ, 其ノ作用ハ異ツテ居ル。藤田¹⁾ニ據ルト, 「アドレナリン」ニ比シテ交感神經催進纖維ヲ刺戟スル作用ハ弱イガ, 抑制纖維ヲ刺戟スル作用ハ比較的勝ツテ居ルト云フ。谷²⁾ハ諸種ノ交感神經毒ニ催進纖維ヲ強ク作用スルモノト, 抑制纖維ニ強ク作用スルモノトノ2大別ガアツテ, 後者ニ屬スルモノニ「アドレナロン」, 「エフェドリン」等ガアル, 其ノ作用強度ハ「アドレナロン」ガ第1位ヲ占メ, 「エフェドリン」ハ抑制作用ノ強サ, 催進作用ノ弱サニ於テ「アドレナロン」ニ劣ルト報告シテ居ル。尙ホ「アドレナロン」ノ馬ヤ牛ノ氣管枝筋ヲ弛緩セシメル作用, 「アセチールヒヨリン」ノ如キ氣管枝筋ノ痙攣ヲ起ス毒物ニ對スル拮抗作用ハ「アドレナリン」ヨリ遙ニ強ク, 家兔ノ血壓ヲ亢進サセル作用ハ「アドレナリン」ノ約2千分ノ1, 蛙心ヲ催進セシメル作用ハ「アドレナリン」ノ約10分ノ1ト云ツテ居ル。

故ニ「エフェドリン」, 「アドレナリン」又ハ「アドレナリン」ヲ含ム藥劑ヲ使用シタ時ニ起ル不快副作用ハ「アドレナロン」ヲ使用スレバ避ケ得ラレルト思フ。換言スレバ氣管枝喘息ノ際ニ「アドレナロン」ハ適當量ヲ用フレバ交感神經抑制纖維ノミニ作用シテ催進纖維ニ殆ド作用シナイト云フ如キ理想的效果ヲ奏シ得ルモノト思フ。

次ニ實驗例ヲ述ベル。之ニ用ヒタノハ1%ノ鹽酸「アドレナロン」溶液デ, 0.5%ノ「クロロトーン」ヲ附加シテ防腐シタ無色透明ナ液デアル。而シテ各例トモ皮下注射トシテ用ヒタ。

實 驗 例

第1例 浪○マ○女 40歳 無職
初診 昭和5年4月24日

診断 氣管枝喘息
既往症及ビ現症 9年前妊娠中ニ氣管枝喘息ニ罹

リ、爾來毎年2、3回發作ガアル。昨日カラ呼吸困難、喘鳴、咳嗽、少量ノ喀痰ガアル。體格ハ纖細、榮養中等、輕イ貧血ガアル。體溫36.3度、脈96、跪坐呼吸、呼氣性呼吸困難、啞軋音、笛聲音ヲ聽キ、殊ニ呼氣時ニ著明。

療法及ビ經過 「アンタストール」1cc皮下注射、忽チ顔面蒼白、不安、心悸亢進ヲ起ス、脈ハ110トナル、6分後ニ呼吸困難ハ無クナツタガ、啞軋音、笛聲音ハ聽ユル。沃剝、「ヘロイン」ヲ投與シテ置ク。翌々日前同ト同様ナ發作ガアツタ。「アドレナロン」1cc皮下注射、4分後ニハ呼吸困難ガ無クナリ、6分後ニハ理學的症候ガ全ク無クナリ、心悸亢進、不安、顔面蒼白、脈數ノ増加等ハナイ。其ノ後發作ハ聞カナイ。

第2例 吉○タ○女 66歳 「ベンキ」職ノ母

初診 昭和5年4月18日

診斷 氣管枝喘息

既往症及ビ現症 生來健康デ醫治ヲ受ケタコトハナイ。今朝遽ニ呼吸困難ヲ起シ、今ニモ絶命スルカト思フ。體格強剛榮養中等、體溫36.0度、脈96、呼氣性呼吸困難デ跪坐シテ居ル、喘鳴、全胸笛聲音。

療法及ビ經過 「アドレナロン」1cc皮下注射、3分後ニ呼吸困難ガ去ツテ、8分後ニ理學的症候ガ消エタ、心悸亢進、不安、顔面蒼白、冷汗等ハナイ、脈100。同年9月17日ニ同様ノ發作ガ起キテ、「アドレナロン」1cc用ヒルト2分後ニ呼吸ハ安靜トナリ、5分後ニ理學的症候全ク無クナル。副作用ナク、脈數増加モナイ。

第3例 中○治○男 64歳 労働者

初診 昭和5年2月24日

診斷 氣管枝喘息

既往症及ビ現症 數年來、冬ニナルト咳嗽、呼吸困難ニ苦シメラレ、其ノ度毎ニ注射ヲ受ケテ快クナルモ、10日間位ハ離床スルコトガ出來ナイ。10日前カラ夜ニナルト咳嗽ガ特ニ甚ダシクテ、呼吸困難ヲ

起シ、横ニ臥ルコトガ出來ズ、此度ハ注射服藥シテモ快クナラヌ。體格強剛、榮養中等、體溫36.8度、脈90、蒲團ヲ重ネテ寄りカカリ、呼氣性呼吸困難、喘鳴、全胸笛聲音、啞軋音。

治療及ビ經過 「アドレナロン」1cc注射、5分後少シク緩解シタガ尙ホ苦シテ居ル。更ニ1cc、5分後呼吸ガ安靜トナリ、理學的症候ハ全ク無クナラナイガ、横臥スルコトガ出來タ。其ノ時脈90、心悸亢進又ハ顔面蒼白ハナイ。翌日輕イ呼吸困難ガ起キテ、聽診上乾性囉音ヲ認ム、「アドレナロン」1ccデ3分後ニ呼吸困難ガ去リ、5分後ニ理學的症候無クナル此際モ脈數増加、心悸亢進等ハナイ。

第4例 小○長○男 52歳 農業

初診 昭和5年2月10日

診斷 氣管枝喘息

既往症及ビ現症 20年前ニ「マラリヤ」ニ罹ツタ外ニハ病氣ハナイ。昨年8月以來、時々呼吸困難ノ發作ガアルガ兩3日ニテ快クナリ、臥床スル程デハナイ。昨日カラ呼吸困難ガ起キタガ臥床スル程デハナイ。體格強剛、榮養佳良、體溫36.3度、脈60、呼吸困難ハ呼氣性デ全胸ニ笛聲音ヲ認メル。

治療及ビ經過 「アドレナロン」0.5cc皮下注射、3分後ニハ呼吸困難去リ笛聲音ヲ認メナイ、併シ顔面蒼白、心悸亢進、不安、耳鳴ヲ起シテ脈ハ90トナル。同月19日呼吸困難發作、體溫36.5度、脈60、前同ト同様デアル。「アドレナロン」1cc、3分後ニハ全ク症候ガ無クナル。脈ハ60、心悸亢進、耳鳴、顔面蒼白又ハ不安等ハナイ。

第5例 宮○こ○女 33歳 「マツチ」工

初診 昭和6年4月20日

診斷 氣管枝喘息

既往症及ビ現症 幼時カラ寒クナルト呼吸困難ノ發作ガアル。1週間前カラ夜ニナルト咳嗽、喀痰ガアル、少シ動クト呼吸困難ガ起キル。體格榮養中等、體溫36.0度、脈60、聽診上呼氣時ニ全胸部ニ笛聲ヲ

聞ク。

治療及び経過 「アドレナロン」1cc注射，4分後ニ自覚症状ハ全ク良好トナリ，笛聲減少シ，7分後ニハ笛聲全ク無クナル。脈60，心悸亢進，蒼白，冷汗等ハナイ。沃剝投與，其ノ後呼吸困難ナク，咳嗽，喀痰モ4日後ニハ無クナル。

第6例 田○實 男 17歳 無職

初診 昭和5年6月16日

診断 気管枝喘息

既往症及び現症 3年前カラ毎月1，2回呼吸困難発作ガアル，注射ニヨリテ直チニ全快スルコトモアリ，快クナラズシテ兩3日持續スルコトモアル，初ハ「アドレナリン」ガ奏效シタガ，此頃ハ無效トナツタ。「パントポン」デハ兩3日後デナイト全快シナイ，近頃ハ「エフェドリン」錠ヲ發作前ニ内服シテ居ルガ，輕イ發作ノ時ハ奏效スルガ，重イ時ハ無效デアル。昨夜カラ呼吸困難ノタメ跪坐ノママデー睡モシナイ，「エフェドリン」ヲ矢鱈ニ内服シタガ樂ニナラスト云フ。體格強剛，榮養佳良，體溫36.0度，脈84，跪坐シテ兩手ヲ前ニツキテ，呼吸頗ル困難，喘鳴甚ダシ，全胸ニ哮軋音，笛聲ヲキク，呼氣延長，呼吸性呼吸困難。

治療及び経過 「アンタストール」1cc注射，6分後呼吸困難ハ輕度トナツタガ，胸部ノ理學的症候ハ去ラナイ。心悸亢進，顔面蒼白，不安，脈104，9月24日同様ノ發作，「アンタストール」1cc注射，結果ハ前ト同様。10月18日發作，「アンタストール」1cc注射，前回ト同様ニナツテ，冷汗ヲ發シタ，10月30日發作，「アドレナロン」1cc注射，7分後呼吸困難ハ快クナツタガ，胸部ノ症状ハ全クハ去ラス。脈ハ注射前後共84，心悸亢進，顔面蒼白，不安，冷汗ハナイ。15分後呼吸困難ハ輕度トナツタガ胸部ノ症状ガ去ラナイノデ更ニ1cc注射，3分後理學的症狀全ク無クナル。脈86，心悸亢進等ノ不快症状ハナイ。11月6日發作，脈96，「アドレナロン」1cc注射，奏

效シナイノデ5分後1cc注射，發作ハ緩解シタガ，理學的症狀ハ去ラナイ，脈ニ變化ナク，心悸亢進モ蒼白モ來ナイ。11月13日發作，「アドレナロン」1cc注射，5分後緩解，胸部ノ理學的症狀ガ去ラナイノデ，5分後ニ1cc注射，全ク症状消失。脈數ハ注射ノ前後變化ナシ。昭和6年1月1日發作，「アドレナロン」1cc注射。6分後全ク症状無クナル，勿論脈ニ變化，心悸亢進，顔面蒼白ハナイ。1月2日朝發作，「アンタストール」1cc注射，緩解シナイ，10分後ニ「スバスマルギン」1cc注射，稍々緩解シタ。同日夕景ニ發作，「アドレナロン」2cc注射スルモ無效，「モルフィン。アトロピン」(0.01, 0.0004)1cc注射スルモ殆ド無效。1月3日朝發作，「アンタストール」1cc，後「アドレナリン」0.5cc宛2回，「パピナール。ババベリン」1cc注射スルモ殆ド無效。1月31日發作，「アドレナロン」2cc注射，6分後呼吸困難ハ輕クナツタガ，胸部ニ尙ホ乾性囉音ガ殘存シタ。4月14日發作，「アドレナロン」2cc注射，10分後呼吸困難モ胸部所見モ大部分消失。6月12日發作，「アドレナロン」2cc注射，15分後十分奏效シナイノデ更ニ1cc注射，漸ク發作ガ鎮靜シタ。之等ノ總テノ場合，「アドレナロン」ノ後ニ心悸亢進，顔面蒼白等ノ副作用ハ全然ナク，脈ハ注射ノ前後變化ハナイ。6月13日發作，「アドレナロン」2cc注射，10分後ニ發作ガ輕度トナル。6月19日朝發作，「アドレナロン」2cc注射，午後發作，「アドレナロン」2cc注射，夜發作，「アドレナロン」2cc注射，毎回發作ガ全クハ去ラナカッタ，何等副作用ハナイ。6月23日朝發作，「アドレナロン」2cc10分後ニ發作ガ緩解シタ。夕景ニ又發作，「アドレナロン」2cc注射，15分後ニ發作輕快シタガ全クハ去ラナイ。副作用ハ勿論ナイ。

第7例 須○一○ 男 44歳 農業

初診 昭和6年9月16日

診断 気管枝喘息

既往症及び現症 2週間前カラ咳嗽，呼吸困難ガ

起り、喀痰ハナイ、初2日間輕イ熱モアツタガ臥床スル程デハナイ。體格強剛、榮養佳良、體溫36.4度、脈84、咽頭充血、全胸笛聲ヲ聴取、呼氣ハ延長。

治療及ビ經過 「アドレナロン」1cc注射、6分後呼吸困難モ胸部所見モ全ク去ル、脈84、心悸亢進、蒼白、不安何レモナイ、沃剝、「ヘロイン」ヲ投與、其ノ後呼吸困難ナシ、咳嗽モ4日後ニハ去ル。

第8例 柴〇フ〇 女 36歳 飲食店業

初診 昭和6年7月28日

診断 氣管枝喘息

既往症及ビ現症 15年前カラ氣管枝喘息ノ發作ガ毎月1回位起キタガ、8年前ニ分娩シテ後ハ1年5、6回トナツタ。目下妊娠2箇月、3日前カラ發作ガ起キテ漸ク跪坐呼吸デ晝夜ヲ過シテ居ル、以前ハ「アストモリゲン」ヲ注射シタリ、嗅ギ藥ヲシタリシテ快クナツタガ、近頃ハ餘リ奏效シナイ、此度モ兩方ヲ試ミタガ一向效果ガナイ。體格纖細、榮養ハヨクナイ、體溫36.3度、脈120、跪坐呼吸、呼氣性呼吸困難、全胸ニ哮軋音、笛聲音ヲ聴ク。

治療及ビ經過 「アドレナロン」1cc注射、5分後自覺症狀輕快、脈96、心悸亢進、蒼白、冷汗等ハナイ、7分後呼吸困難ハ去ツタガ、笛聲音ガ殘存シテ居ル、「アドレナロン」1cc注射、其ノ後8分後呼吸困難ハ全ク去ツタガ笛聲音ハ少數殘存、脈96、横臥シ得ルヤウニナツタ。副作用ハ全然ナイ、翌日發作、横臥又ハ跪坐シテ過ス、「アドレナロン」1cc注射、8分後ニ自覺症狀ハ去ツタガ、胸部所見ハ全クハ去ラナイ、沃剝、臭剝ヲ投與シテ置ク、其ノ後ハ發作ハナイ。

第9例 福〇フ〇 女 46歳 大工ノ妻

初診 昭和7年4月26日

診断 氣管枝喘息

既往症及ビ現症 7、8歳頃ヨリ毎年2回位喘息發作ガアツテ4、5日間持續シタ、27年前分娩後ハ4、5年ニ1回位トナル、15日餘リ前ニ感冒ニ罹リ、喘息

發作ガ起キタ、夜間及ビ朝ニ咳嗽ガアル、呼吸困難ノ爲メ横臥スルコトガ出來ズ、晝夜跪坐シテ居ル、上厠後ハ心動ガ烈シクテ殊ニ苦シイ。體格強剛、榮養佳良、體溫36.5度、脈84、跪坐呼吸デ呼氣性呼吸困難、全胸ニ呼氣時ニ笛聲音ヲキク。

治療及ビ經過 「アドレナロン」1cc注射、6分後ニ呼吸困難ガ去リ、10分後ニ理學的所見ガ無クナル。脈84、心悸亢進、顔面蒼白等ハナイ。沃剝、「ヘロイン」ヲ投與スル。翌日發作、「レプリン」1cc(「ラセドリ」0.035、非旋性「ズブラレニン」0.0002ヲ含ム)注射、10分後ニ自覺的症狀ハ少シク緩解シタガ、笛聲音ハ多數殘存シタ。心悸亢進ヲ來シ脈ハ96トナリ、氣分惡シト云フ。2日後ニ又發作、「アドレナロン」2cc注射、5分後自覺症候輕快シ、10分後ニ理學的症候少シク殘存、脈ニ變化ナク、心悸亢進、顔面蒼白等ハナイ。3日後ニ又發作、「エフェドリン」1cc注射、15分後ニ自覺的、他覺的ニ輕快、心悸亢進、顔面蒼白ヲ來ス。翌日發作「アドレナロン」2cc注射、8分後自覺的、他覺的症狀全ク無クナル。其ノ後輕イ發作ガ2回アツタガ、注射ヲ要スル程デナク、5日後ニハ全ク快癒。

第10例 岡〇藏 男 48歳 掃除夫

初診 昭和7年4月29日

診断 氣管枝喘息

既往症及ビ現症 一昨日ヨリ夜間ニ呼吸苦シク、夜間及ビ朝間咳嗽ニ苦シム。體格強剛、榮養佳良、體溫36.5度、脈72、呼氣的呼吸困難、全胸呼氣時ニ笛聲音ヲキク。

治療及ビ經過 「アドレナロン」1cc注射、4分後呼吸難去リ7分後胸部所見ナクナル。脈72、心悸亢進モ顔面蒼白モナイ。

第11例 岡〇カ 女 53歳 無職

初診 昭和7年2月8日

診断 氣管枝喘息

既往症及ビ現症 10年前ヨリ毎年1、2回喘息發

作ガアル、其ノ都度注射デ輕快スルモ、兩3日後デナイト全治シナイ。今夜遽カニ發作ガ起ツテ跪坐呼吸ヲシテ居ル。體格、榮養中等、少シク貧血、體温36.6度、脉60、跪坐呼吸、全胸笛聲音ヲ聽ク。

治療及ビ經過 「アドレナロン」1cc注射、5分後呼吸困難ガ輕クナリ、7分後ニハ全ク去リ、笛聲音モ全クナクナル、横臥スルコトガ出來タ。脉變化ナク、心悸亢進、不安、蒼白等ハ全クナイ。其ノ後發作ハナイ。

第12例 森○濱○ 男 41歳 會社員

初診 昭和7年2月1日

診斷 氣管枝喘息

既往症及ビ現症 5年前ヨリ冬ニナルト1、2回呼吸困難ノ發作ガアリ、注射デ鎮靜スル。今朝カラ發作、横臥スルコトガ出來ヌ。體格強剛、榮養佳良、體温36.0度、脉60、呼吸的呼吸困難、全胸ニ笛聲音、啞軋音。

治療及ビ經過 「アドレナロン」1cc注射、6分後呼吸困難ナクナリ8分後胸部所見消失、脉變化ナク、心悸亢進、顔面蒼白等ナシ、横臥シ得ルヤウニナル。

第13例 正○初○郎 男 50歳 下駄製造

初診 昭和7年1月11日

診斷 氣管枝喘息、氣管枝加答兒

既往症及ビ現症 20年位前カラ毎冬1回位感冒ニ罹リ、咳嗽ガ長ク止マヌ、其ノ間ニ喘息發作ガ起キル習慣トナツテ居ル、種々注射ヲ受ケタガ、「モルヒネ」デナイト鎮靜シナイ。昨年12月末ニ感冒ニ罹ツテ咳嗽ガ止マヌ、昨夜カラ喘息發作、蒲團ニ凭レテ夜ヲ明カス。體格中等、可ナリ羸瘦、咽頭稍々發赤、體温36.8度、脉84、喘鳴、呼吸延長、全胸ニ笛聲音、背側下部ニハ濕性囉音ヲ認メル。

治療及ビ經過 「アドレナロン」1cc注射、10分後ニモ呼吸困難ガ輕クナツノミ、更ニ1cc注射、5分後ニ呼吸困難ガナクナリ、7分後ニ笛聲音ガ少數トナツテ横臥シ得タ、脉84、心悸亢進、顔面蒼白等ハナイ。沃剝、「ヘロイン」ヲ投與シテ、其ノ後發作ハ起キナイ。

第14例 弘○海○ 男 32歳 會社員

初診 昭和7年2月29日

診斷 氣管枝喘息、氣管枝加答兒

既往症及ビ現症 2、3年前カラ毎冬1、2回感冒ニ罹リ、其ノ時ニ時々呼吸ガ苦シクナル。昨日カラ鼻汁出デ、咳嗽ガアリ、今日ハ頭痛ガシテ、呼吸困難ガ強イ。體格強剛、榮養佳良、38.3度、脉96、喘鳴、呼吸的呼吸困難、兩肩ヲ呼吸ト共ニ動かカス、全胸ニ笛聲音、左側ハ前後共下部ニ濕性囉音ヲ認メル。

治療及ビ經過 「アドレナロン」1cc注射、8分後呼吸困難去リ、10分後ニ笛聲音消失、脉ニ變化ナク、顔面蒼白、心悸亢進、不安等ハナイ。沃剝、「アスピリン」ヲ投與。其ノ後ハ呼吸困難ナシ、翌々日ハ濕性囉音モナク、無熱全治。9月18日カラ鼻加答兒、咳嗽、20日夕景呼吸遠ニ困難トナリ、呼吸ガ切レルヤウニト訴フ。36.0度、脉72、甚ダシイ呼吸的呼吸困難、全胸ニ啞軋音、笛聲音ヲ認メル。「アドレナロン」1cc注射、8分後ニ呼吸困難モ胸部所見モヨクナル。顔面蒼白ヤ心悸亢進ナク、脉ニ變化ハナイ。2時間後同様ナ發作、「エフエドリン」1cc注射、30分經過シテモ呼吸困難ハ少シ輕クナツタノミデ、顔面蒼白トナリ氣分ガ悪イト云フ、「アドレナロン」ヲ1cc注射シテ、10分後ニ呼吸困難ガ去リ、笛聲音ノミ少數殘存。

總 括

以上症例ニヨツテ、「アドレナロン」ハ氣管枝喘息ニ對シテ特效的ニ作用スルト認メル。即チ須之内³⁾ノ成績ト一致スル所デアアル。14例中1例(第6例)ノミガ奏效不完全デアツタ。作用

法ハ先ヅ自覺症ガナクナツテ次デ理學的症候ノ消失スル場合ガ多イ。多クノ場合自覺症ハ注射後3—8分、理學的症候ハ5—10分デナクナル。遅イ場合ハ自覺症ガ15分、理學的症候ハ20分位ノ後ニナクナル。1回ノ用量ハ1ccデ十分デアル。時トシテ2ccヲ要シタコトモアル。

特筆スベキハ他ノ「アドレナリン」, 「エフェドリン」, 「アストモリヂン」及ビ「アンタストール」等ニテ觀ル如キ不快ナ副作用、例ヘバ心悸亢進、脈數増加、顔面蒼白、冷汗、不安、振顫等ニ1回モ遭遇シナクツタ事デアル。1回ニ1cc用ヒタ時ノミナラズ、第3例、第8例、第9例デハ1回2cc、或ハ少シノ間隔ヲオイテ2cc宛用ヒタ時モ同様デアル。殊ニ第6例デハ餘リ間隔ナシニ2cc用ヒ、或ハ2cc宛1日2回、3回用ヒタ場合モ同様デアル。此點カラ、本劑ニハ副作用絶無ト云ツテモ過言デハナイ。

症例ガ少イ故、他劑トノ比較ヲ明言スルコトハ困難デアルガ、少クトモ以下ノ如ク云ヒ得ル。第1例デハ「アンタストール」ヲ用ヒタ時ヨリ「アドレナロン」ヲ用ヒタ時ノ方ガ發作ガ早く且完全ニ鎮靜シタ。第6例デモ「アンタストール」ヨリモ完全ニ發作ヲ鎮靜セシメタ、尙ホ「アドレナリン」, 「ババヴエリン」, 「モルフィン」, 「アトロピン」ヨリモヨク奏效シタ。第9例デハ「レフリン」ヨリモヨク奏效シ、 「エフェドリン」ヨリモ早く奏效シテ居ル。第14例デハ「エフェドリン」ハ奏效不十分デアツタガ「アドレナロン」ハ奏效確實デアツタ。又假令效果ニ著差ガナキ時デモ副作用絶無ノ點ニ於テ「アドレナロン」ガ他劑ノ追從ヲ許サナイコトヲ第1例、第6例、第9例、第14例ガ顯著ニ物語ツテ居ル。

尙ホ本劑ハ皮下ニ注射スルモ疼痛、腫脹等ハ1回モ認メズ、吸收極メテ良好デアル。

文 獻

- 1) 藤田, 岡醫雜 39年, 3號, 179頁. 2) 谷, 岡醫雜 42年, 11號, 2769頁, 2789頁. 3) 須之内, 岡醫雜 42年, 11號, 2764頁.

